で宮に世古村を女に授けられ給ふ故に安保殿
金堅の時世古村に新宮を建立し給ふ後また宮を
り遷る時丹生に詣給ふ鏡の光を隠し給ひしと申
さるとかや扨世の時分殿壹を門道を老人の子をもうけ
山に逃隠るとて四位門内に御ふかくあるとなり

金剛能題之内八幡宮白山権現社之事

安保殿代より宮酒井家の時代まで領地の内に八幡宮
山王社あるとなり然るに安保殿滅亡後領の内に梅

本興右衛門（石右と云）と云ふ人住居を大山寺住の人と云ふ其頃
八幡宮の御託宣に社を世古村に遷すべしと御託宣
新にあらまほしき之故信用せず神主の御恐
なるべしとて捨置れ市に其後宮破壊して遷宮
を人世に其功既に埃に宮永十年五月廿壹日上
生時出羽国焼失に依て憚知るべしと云者
神子を呼び神託をせしに二十六年に宮居すべ
しと云ふ告げ侯に信用せず依て焼失すと御託
宣に云ふ然る後金剛北前に宮居をと言